

# History of trash and trash collection in Japan

# ごみとごみ収集の歴史

今は当たり前となっているごみの収集システムだが、その歴史はどこから始まったのだろうか。また、どのようにごみを捨てていたのだろうか。人間が生活する上で必ずといっていいほど生まれるごみは、歴史とともに人間の生活様式の変遷を辿ってきたと言えるだろう。ごみの歴史を紐解き、なぜごみ収集が始まったのか、どのように行われていたのかを調査しながら、現在のごみについての情報も整理する。

時代	主な出来事	ごみの捨て方	回収方法	特徴
縄文		貝塚		・ごみを居住空間から遠ざける生活
弥生		田舎		・村の周りの溝や水田の排水路に直接捨てていた
奈良		ごみ穴		・埋め立て、焼却、側溝に流す ・都を一代ごとに転々と移動していた理由の一つに都のごみの問題があった ・くみり便所の発明
平安	820年 (承仁11年) 宮中の掃除をその役職「掃部寮」が成立する			
鎌倉	ごみ処理が始まる			
江戸	1655年 (承応4年) ごみ捨て場を永代浦に定める (現在の江東区富岡八幡宮)	川・堀・空き地	舟船	・基本的にはリサイクル社会 ・再利用が難しい生ごみ等は堀や川、会所地(空き地)へ捨てられる ・重要な水上交通の邪魔になった ・江戸のごみ問題は、衛生上の問題としてではなく、不法投棄から生じる社会問題のひとつとして浮上した
	1662年 (寛文2年) 幕府がごみ処理業者を限定する 民営によるごみ処理が明治まで続く			
	1699年 (寛文2年) 江戸町奉行に「存改良」という不法投棄を取り締まる部署を作る	籠町の塩漬屋 灰置 古着屋 下肥運び	舟船 車 荷物の運び 高層の本格扱い	
明治	伝染病が流行る 公衆衛生の向上			・ひっくり返せず、回収員が掻き出さないといけない ・悪臭やゴキブリの温床 ・人力での回収のため行動範囲も狭く回収回数も少ない
	1897年 (明治30年) 日本に最初のごみ焼却場が福井県敦賀中にできる			
	1900年 (明治33年) 汚物掃除法 市町村がごみ処理の責任を負う仕組みへ			
大正				
昭和	1954年 (昭和29年) 清掃法 1961年 (昭和36年) ポリバール販売開始 1964年 (昭和39年) 東京オリンピック 1970年 (昭和45年) 廃棄物処理法 1973年 (昭和48年) 一般廃棄物の分別が始まる	塵芥箱 蓋付きポリエチレン製ごみバケツ (ポリバール) ポリ袋 路上にネット カゴ型	大八車 自動車 清掃タンクトラック トラック 乗客(バスター)車	昭和期に入り、外国との交易が盛んになると伝染病が周期的に流行ったため、公衆衛生の向上が早急に求められた。1900年には汚物掃除法が定められ、「座芥(じんかい=ごみ)はなるべくこれを焚却すべし」と定められ、ごみ焼却が日本の主要な処理方法と位置づけられた。その際に、これまで民間で行っていたごみ処理を市町村が責任を負う仕組みとなった。 各家庭には、木製あるいはコンクリート製のごみ箱が設置され、この中にごみが直接捨てられていた。ごみの回収は大八車による人力での回収が不定期に行われた。この大八車を引く回収員がチリンチリンと鈴を鳴らしながら通る際に、バケツを持った人々がごみを捨てて集まるところもあれば、回収員が各家庭のごみ箱からごみを掻き出して収集するところもあったようだ。 昭和期に入ると高度経済成長期や人口増加を経て、ごみ問題がより深刻なものとなっていった。ごみは路肩や川に捨てられ、ハエやゴキブリ、ネズミなどが大量発生する不衛生な状況が続いていた。そんな中、1954年の清掃法の制定や、東京オリンピックの開催が決定し、国をかけてごみ問題に取り組みむこととなった。それまで使われていた木製のゴミ箱の代わりに、東京都と積水化学が合同で開発したポリエチレンバケツが使われるようになった。このバケツは軽く水洗いすることができたため、これまでの回収効率より格段に早く、また清潔な状態を保ちやすくなった。 また、回収方法は1952年頃から自動車が登場していった。自動車の初期は自動車三輪車やダンプトラックでの回収で、回収効率は上がったものの大八車での回収と大差はなかった。ダンプトラックには天蓋がなかったため、道路に埃やごみを撒き散らし住民からの不満も多かった。その後、回転式のソフトプレスタイプのバスターが採用され、全国に普及していった。これにより道路にごみや埃が撒き散らされることもなくなり、一度に大量の収集が可能となった。 さらに、1973年には都内で一般廃棄物の分別回収が始まった。分別収集をスムーズに行うためには、住民の協力が必要不可欠であった。そのため、住民への説明会やテレビ・ラジオでの広報、紙や誌面でのPRに力が入られた。その甲斐もあり、住民にとってごみ分別は初めての経験だったが、分別収集についての知識がかなり徹底していた。分けべきごみの6-7割が正しく分別され出されていたという。 分別収集はその後も全国に広がり、資源ごみ回収のためのカゴ置き場がそのまますべての収集の定義(=ゴミステーション)になったと推測する。また、1970年頃からレジ袋が普及し、使い終わった後はゴミ袋として再利用された。このレジ袋は以前使われていたポリバールの代わりとして徐々に成り代わっていった。 しかし、カラスによる食い荒らし被害が増え、その対策としてネットを被せる対策が生まれたと考える。ゴミステーションによる収集が一般的になると、計画的に造成された住宅地では開発当初からゴミステーションの確保が確保されるようになった。また、この頃建てられた団地などの集合住宅には「ダストシュート」というものがあった。各階にごみを捨てる扉が付いていて、そこへごみを捨てることで通っている管から1階のごみ集積場まで一気に落ちていくという仕組み。利用者は1階へ行かなくても、いつでもごみを出せ楽だが、溜まるごみの悪臭や子供にとって危険という理由から使われなくなっていった。
平成	1989年 (平成元年) 北海道伊達市にて初のごみ袋有料化が始まる 1993年 (平成5年) 半透明推奨袋制度 2000年 (平成12年) 循環型社会形成推進基本法 資源有効利用促進法			
令和				

## ・ごみの歴史を紐解く

縄文時代の人々は集落で住んでおり、居住地の衛生を守るため、ごみを住居空間から遠い場所に捨てていた。それが「貝塚」と呼ばれる場所であった。貝塚には当時の食料であった貝の殻や、魚・獣の骨、土器・石器などが捨てられていた。当時の生活を紐解くものとして遺跡に指定されているものもある。このことから、ごみは当時の生活様式を表すものとして重要な手がかりとなる。

弥生時代は、村の周りの溝や水田の排水路に直接捨てていた。弥生時代の貝塚はあまり見つかっていないため、縄文時代のごみ処理の仕方が変わったことが分かる。

平安時代のごみ処理は、穴を掘って埋め立てることが主流となっていた。その頃の都市では人々の数が増え、ごみを処理しきれなくなったことから都を転々と移動していたという説もある。また820年には「掃部寮」という役職が制定されており、宮中行事の際に殿中の掃除を行っていた。現代でも続く習慣「年末の大掃除」が生まれたのもこの頃だと言われている。当時の大掃除は「すず払い」と呼ばれ、厄を払って新年を迎えるための宮中儀式のひとつだった。「延喜式」という法律には清掃や掃除のことが数多く記述され、京の生活環境を保とうとしていたことが分かる。

鎌倉時代のごみ処理は、埋め立てなど以前の方法とあまり変わらない。歴史書「吾妻鏡」にも寺や道路の掃除の話が述べられている。また、くみり便所もそのころ発明されたようだ。背景に鎌倉幕府が米と麦の二毛作を推奨し、土壌をこげないように肥料が必要となったからとされている。

江戸時代に入ると都市の人口が増え、ごみ問題が顕著になっていった。基本的には物は徹底的に再利用、再利用ができるリサイクルの組織が社会的に整っており、大勢の職人や商人がリサイクル業で生計を立てていた。そのため社会全体から発生するゴミの量を抑える仕組みになっていた。しかし、再利用が難しい生ゴミや災害後の土砂や灰は、堀や川、会所地と呼ばれる空き地へ捨てられていた。このようなごみは水上交通の邪魔になったり、不衛生な環境から伝染病が流行ったりと問題になっていた。そこで三代将軍家光や四代将軍家綱は、このごみ捨て場を悪臭や美観上の問題から禁止する「町敷」を出し、不法投棄の防止に努めた。その代わり、幕府は1655年に永代浦(現在の江東区富岡八幡宮)をごみ捨て場に指定した。また1662年には幕府がごみ処理業者を限定し、それ以外の者の営業を禁止した。この民営によるごみ処理は明治まで続いた。

明治時代に入り、外国との交易が盛んになると伝染病が周期的に流行ったため、公衆衛生の向上が早急に求められた。1900年には汚物掃除法が定められ、「座芥(じんかい=ごみ)はなるべくこれを焚却すべし」と定められ、ごみ焼却が日本の主要な処理方法と位置づけられた。その際に、これまで民間で行っていたごみ処理を市町村が責任を負う仕組みとなった。

各家庭には、木製あるいはコンクリート製のゴミ箱が設置され、この中にごみが直接捨てられていた。ごみの回収は大八車による人力での回収が不定期に行われた。この大八車を引く回収員がチリンチリンと鈴を鳴らしながら通る際に、バケツを持った人々がごみを捨てて集まるところもあれば、回収員が各家庭のごみ箱からごみを掻き出して収集するところもあったようだ。

昭和期に入ると高度経済成長期や人口増加を経て、ごみ問題がより深刻なものとなっていった。ごみは路肩や川に捨てられ、ハエやゴキブリ、ネズミなどが大量発生する不衛生な状況が続いていた。そんな中、1954年の清掃法の制定や、東京オリンピックの開催が決定し、国をかけてごみ問題に取り組みむこととなった。それまで使われていた木製のゴミ箱の代わりに、東京都と積水化学が合同で開発したポリエチレンバケツが使われるようになった。このバケツは軽く水洗いすることができたため、これまでの回収効率より格段に早く、また清潔な状態を保ちやすくなった。

また、回収方法は1952年頃から自動車が登場していった。自動車の初期は自動車三輪車やダンプトラックでの回収で、回収効率は上がったものの大八車での回収と大差はなかった。ダンプトラックには天蓋がなかったため、道路に埃やごみを撒き散らし住民からの不満も多かった。その後、回転式のソフトプレスタイプのバスターが採用され、全国に普及していった。これにより道路にごみや埃が撒き散らされることもなくなり、一度に大量の収集が可能となった。  
さらに、1973年には都内で一般廃棄物の分別回収が始まった。分別収集をスムーズに行うためには、住民の協力が必要不可欠であった。そのため、住民への説明会やテレビ・ラジオでの広報、紙や誌面でのPRに力が入られた。その甲斐もあり、住民にとってごみ分別は初めての経験だったが、分別収集についての知識がかなり徹底していた。分けべきごみの6-7割が正しく分別され出されていたという。  
分別収集はその後も全国に広がり、資源ごみ回収のためのカゴ置き場がそのまますべての収集の定義(=ゴミステーション)になったと推測する。また、1970年頃からレジ袋が普及し、使い終わった後はゴミ袋として再利用された。このレジ袋は以前使われていたポリバールの代わりとして徐々に成り代わっていった。  
しかし、カラスによる食い荒らし被害が増え、その対策としてネットを被せる対策が生まれたと考える。ゴミステーションによる収集が一般的になると、計画的に造成された住宅地では開発当初からゴミステーションの確保が確保されるようになった。また、この頃建てられた団地などの集合住宅には「ダストシュート」というものがあった。各階にごみを捨てる扉が付いていて、そこへごみを捨てることで通っている管から1階のごみ集積場まで一気に落ちていくという仕組み。利用者は1階へ行かなくても、いつでもごみを出せ楽だが、溜まるごみの悪臭や子供にとって危険という理由から使われなくなっていった。

のちに、より強固な対策としてカゴ型や金属のものも出現するようになった



## 法律・設置条件

ゴミステーションの設置基準は自治体によって違いますが、どの自治体にも共通するポイントをおげると以下のようなものになる。また設置には計画書や申請書、ゴミステーションの詳細図面、見取り図などを市町村に提出する必要がある。

- 道路に面して設置する
- ごみ収集時に安全に収集作業を行える場所にする
- カーブ・急勾配・横断歩道・停留所などから離れている場所にする
- 歩行者と一般車両の通行の妨げにならないこと
- 一箇所あたりの利用世帯数は10~30世帯にする
- 土地の所有者と近隣住民に同意を得ること

## 色彩

ゴミステーションは、黄・緑・青といった色が多い。その理由を調査・考察した。結果、ゴミステーションが出現した頃の名残がこの3色が使われていることがわかった。これらの色でなければならない明確な理由は無いようだ。

『カラスは黄色が苦手』という誤解が広まったから  
東京都にて、カラス対策で紫外線をカットする黄色の顔料が入ったごみ袋を使用したところ、カラスはごみ袋の身が見えず効果があった。これがマスコミで取り上げられたところ、「黄色が効果的」という誤解が広まってしまった。カラスが嫌がる色は無いとされている。

元々使っていた野球やゴルフ用のネットが、景観に溶け込むための緑色だったから  
現在はカラス対策のされた網目の細かい頑丈なネットが販売されているが、それが無い時代には野球やゴルフ、作物栽培用のネットが使用されていた。それらは周囲の自然の風景に溶け込むようにという理由で緑色だったため、それがそのまま現在の商品にも流用されたものと思われる。

最初に出現したポリバールが青色だった名残・清潔感があるから  
ポリバールが青色の理由は、製造コストが一番抑えられる色が青だったからである。また、清潔感があり、新しい時代の始まりを感じる色として青が流行った時代でもあるからという説もある。その名残で現在も青色の製品が多いと考えられる。

## 発生する問題

原因がゴミステーション自体にあるもの

- ・悪臭
- ・動物によるゴミの散乱
- ・捨てにくい・音
- ・ボイ捨て・不法投棄
- ・分別の不徹底
- ・規定外ごみの持ち込み
- ・指定袋以外のごみ出し

原因が人によるもの